

2024-25年度 黒田会長テーマ -時を楽しむ ロータリーを楽しむ-

第3163回例会 令和6年12月10日(火) 天気:晴 No. 16

2024-2025 年度

RI テーマ



会長 / 黒田 正志 幹事 / 小笠原正秀

クラブ会報委員 外山晃久 / 永江義澄 / 羽佐田芳和

例会日: 火曜日 12:30 例会場: 西尾コンベンションホール

事務局: 西尾市永楽町 3-45 西尾信用金庫中央支店内 204

TEL: 0563-54-7770 FAX: 0563-54-7050 URL: <https://www.nishio-rotary.org>

【本日のプログラム】

司 会 萩原竜治例会運営委員長 齊 唱「奉仕の理想」
 プ ロ グ ラ ム <目録贈呈式> 愛知県立にしお特別支援学校 教頭 早川浩史様 /
 フードバンクにしお 代表 布間裕子様 事務局 佐伯智映子様
 講 演 講師 松永製菓(株) 代表取締役社長 松永邦裕様
 『松永製菓の「伝統」と「革新」』 広報課チーフ 可兒里奈様
 食 事 サンディーズダイナー(ハンバーガー)



【副会長挨拶】



本日は打ち合わせがあり、いつもより早く来ると、例会の準備をしてくださるメンバーの方々が見えまして、まずその方々へ感謝です。ほぼ1番に見える方は鳥居慶輔君だそうです。私が来た時にはもうお茶を配っていました。どうしたのと聞いたら、会社にいるよりはこっちの方がいいと。それから例会運営の萩原竜治君。お金を払ってもいいぐらい上手な司会者です。例会運営副委員長の杉浦竜基君は皆さんのお弁当の準備をしていますが、これがとても大変、何を出しても何か言われるため、彼は真っ先に「こういうものを出していいですか」と私に相談に来ました。何がいいか考えて発注して、お弁当が来るかどうか、その後お弁当が足りるか、余るかどうかを毎回心配されています。

職業奉仕は私たちの職場という舞台がありますが、社会奉仕は何もありません。何に対して社会奉仕をしていくかということを探っていると思いますが、社会奉仕は範囲が広すぎる、ロータリアンは寄付をすることが皆さん共通の認識になっている中で、どこに視点を置くかということが非常に難しいと思います。国際ロータリーは、社会奉仕は訓練だと、それを持ち帰って色々考えなさいと考えています。皆さんは委員長としてこれから色々やっていかれると思いますが、今日のお弁当のように広い視点でいろんなことを考えてくださると、西尾ロータリーがもっと活性化していくと思います。

【委員会報告】

〈出席委員会〉岩瀬 正広委員長

本日の出席数 56名 欠席数 12名 出席率 82.35%

〈スマイルボックス委員会〉山尾ひろみ委員長

小笠原正秀君 特別支援学校 早川様、フードバンクにしお 布間様、佐伯様ようこそ西尾ロータリーへお越し下さいました。先週金曜日に初孫が生まれ、やっどジジイになれました。もう思い残すことはありません。

稲垣良次君 先週地元の高校で講演をさせて頂きました。その記事が地方紙に載りました。微力ながら頑張ります。有難うございました。

石川哲朗君 松永製菓の松永邦裕様、可兒里奈様、愛知県立にしお特別支援学校から早川浩史教頭先生、フードバンクにしお布間裕子代表、佐伯智映子事務局ようこそいらっしゃいました。

杉田明弘君 誕生日のお祝い有難うございました。本当に西尾ロータリークラブは素晴らしい！！



柴田高広君 9月の三女の結婚式に続き、今月二女が結婚式を挙げました。これで4人の子供がみな結婚できホッとしながら少し寂しさも。家族が増え嬉しさも。

杉浦義浩君 今日の昼食は「サンディーズ」のハンバーガー!!地元の若い人が頑張っているお店を利用する事は西尾RCとしても良い事だと思えます。

金原健志君 沢山の方に還暦のお祝いをして頂きました。感謝です!

山崎克弥君 松永邦裕様、今日は西尾ロータリーにお越し頂き有難うございます。卓話よろしくお願ひ致します。

岩瀬正広君 松川泰ちゃんにテンション上がっています!

萩原竜治君 松川泰三君お久しぶりで嬉しいです!

松川泰三君 大変ご無沙汰しております。今日は宜しくお願ひ致します。ハンバーガー楽しみです。

浅岡直幸君 1つ上の高校の先輩に久しぶりに会う事が出来ました。松川先輩!一緒に校歌をうたって下さい。

本多 淳君 12/8に55歳になりました。

高井英和君 松永製菓 松永様、可兒様、この度は大変ご無理を言いました。今日は宜しくお願ひ致します。

岩崎智一君 松川さん来てくれて嬉しいです。

辻村敏晃君 ご報告が遅くなりましたが、11/14をもって辻村工業の代表取締役社長に就任致しました。皆様今後ともご指導お願ひ致します。

【卓話】

松永製菓(株) 代表取締役社長 松永邦裕様 『松永製菓の「伝統」と「革新」』



松永製菓はしるこサンドが看板商品のビスケット専門メーカーです。今年で86年目を迎え、大変長く活動させていただいていますが、同時に弊社は過渡期を迎えています。

企業理念は「お菓子をつくること、それは笑顔をつくること」で、私の父はお菓子を食べる時は皆笑顔とよく言っていました。簡単に沿革を説明すると、1938年、名古屋市西区で創業しました。当時はビスケットではなくキャラメル作りから始まった会社です。創業者である祖父はキャラメル作りからアイスクリーム、粉末ジュース、そしてビスケットなど

ろんなお菓子作りに挑戦していました。そして、1964年に小牧市に本社を移転し活動しています。名古屋市西区の創業の地が手狭になり、より広い土地を探した結果、現在の小牧市に行き着きました。その2年後にしるこサンドを発売開始しました。約10年前の2015年に生しるこサンド、いわゆる贈答品の販売を始めました。

人気の秘訣は主に3つあります。一つ目は、発売以来の変わらない味です。約60年前ですが製法、レシピ共に全く変えておりません。よく時代に合わせて味を変えていく商品もありますが、この変わらない味に価値があるという風に考え、今後も変える予定はありません。二つ目は、時代に合わせた包装形態です。味とは打って変わり、こちらは時代に合わせて変えています。包装形態も、昭和だったら家族みんなで食べるという習慣がありましたが、現在は食品が多様化してきて、持ち運びしたいというニーズがあり、個包装にしたり、それから少量パックにしたりと、味は変えずとも機能性を変えていることが、人気の秘訣に繋がっていると思います。三つ目は、SNSの拡散力の活用です。広報部という部署を数年前に作り、SNSの活用を力を入れています。飽きられないために、常に話題提供を欠かさず行い、忘れられずにまた食べてもらえる仕組み作りをしてきました。

これからに繋がる話で、プレミアムラインの展開で生しるこサンドというものがあります。しるこサンドの約10倍近い値段の贈答品に力を入れています。こういった贈答品を拡充していくと同時に、流通販売がメインでしたが、より消費者の方に直接お届けしたいということで、9月6日に「SHIRUKOTTE」という店舗を作りました。和洋折衷というテーマで贈答品を販売する新たなブランドとして立ち上がりました。

現在、松永製菓は「量販事業」「贈答事業」「特販事業」の3本柱で事業展開していこうと考えています。期待して見守っていただければ幸いです。

プレミアムラインの展開



しるこサンドの展開

